



Profile No.2

関

南北東西 活路に通ず。

篠原 俊

篠原 俊

しのはら たかし
慶應義塾大学経済学部卒
公認会計士・税理士
監査法人勤務後、独立
篠原公認会計士事務所グループ代表
前日本公認会計士協会常務理事、
前北部九州会会長



公認会計士人生を歩むことになったきっかけを教えてください

きっかけは父が公認会計士だったことです。父は学生時代が戦争と重なり学徒動員により勤労奉仕をしているうちに病気になってしまい、戦後同期の友人たちが就職していくなかで病氣療養をしながら悶々としていたようです。ところが昭和23年に公認会計士法ができ父は「これだ!」と思ったとのことで、会計事務所に勤めながら先ず税理士の試験に合格し、そして公認会計士の試験にも合格し開業しております。
当時はまだ公認会計士といっても世間的な認知はほとんどないころでしたが、父はいち早くその存在意義を感じ取っていたのでしょう。その父の意思を受け継いで私も公認会計士を目指しました。

受験生時代について教えてください

大学に行く傍ら公認会計士試験の受験学校に通いました。
その学校では多くの友人ができ、一緒にいろいろ議論しながら勉強したのが良かったと思っています。資格取得後、現在でもとても良い仲間です。
当時はまだ大学在学中に受験する人が少



なかったもので、現役合格した仲間と3人で大学の新聞へ在学中に資格取得することを推奨する記事を書いた記憶があります。

篠原公認会計士事務所について教えてください

私の事務所の特徴はワンストップソリューションを実践しているところにあると思います。資格者として公認会計士以外にも税理士、不動産鑑定士、社会保険労務士、司法書士、中小企業診断士といった資格を持つ者がいます。
関与先にとって業務委託の利便性を図るのが目的でしたが、事務所内においても業務を進めて行くうえで効率的で良いサービスが提供できていると思っています。

篠原公認会計士事務所の行動規範の一つに「グローバルであってローカルであること」というのがありますがこれはどのようなものなのでしょうか

「グローバルな視野を持ちながら行動はローカルに合わせる」といった意味合いです。グローバルな視野だけではローカルにおいて仕事はできませんし、ローカルな視野だけでは大きな流れが見えないことになります。したがって広い視野で大きな流れを理解しつつ地域のありようと融合するような発想で仕事をしていこうと言っています。

公認会計士としての業務以外の活動について教えてください

地域への貢献と自己研鑽の目的で30代から「青年会議所」や地元の経営者や文化人で作る「博多21の会」などに入会し会員として積極的に活動させていただきました。

「青年会議所」では約10年の在籍期間中ほとんど役員をさせていただきました。おかげで様々な良い経験が出来たと思っています。「博多21の会」にはその創立時から参加させていただき、第4代の会長も務めさせていただきました。
私の趣味の一つに茶道があり、遠州流茶道の師範の資格をいただいております。最近始めたことですが日本人経営者としてのアイデンティティのために和文化への理解が大切だということで、「経営者のための茶道教室」を立上げその世話役をしております。結構多くの方が関心を持たれ参加されています。
また、これは公認会計士としての本来の活動になると思われませんが、以前より公会計改革推進のための活動を公認会計士協会役員時代を通じて実践させていただきました。私見ですが明治時代に公会計に複式簿記、発生主義を採用していたら日本の歴史が変わっていたのではないかと考えています。それほど重要なことだと訴えてきました。総務大臣通知も出て本格的に動き出したようなので公認会計士としても活躍の場が広がったのではないのでしょうか。

現在福岡では「グローバル創業・雇用創出特区」や「グリーンアジア国際戦略特区」を、九州全体では「九州アジア観光アイランド総合特区」といった認定をうけております。九州にとって、より活気が生まれる好機と考えられますが、これからの九州経済における公認会計士の役割として、どのようなものが求められるのでしょうか。

特区になることでグローバル化が進み、その中で企業を支援する制度政策が出来て

きます。その制度政策の利用について積極的にサポートしていくべきだと考えます。公認会計士法においても最終的な我々の使命は「国民経済の健全な発展に寄与すること」とされていますので、企業や各種団体をサポートしていくことにより結果として地域経済に貢献するという考えで仕事をしたいのが良いと思います。

最後にこれから業界を担う若い方々へメッセージをいただけますでしょうか

「関 一南北東西活路通ず」
これは禅語で大いに修行して悟りを開いたら「関(かん=関所)を越えることができる。そしてその後は南北東西に自由な素晴らしい道があり、自分の心のままに進んで行っても間違いはないといった意味合いです。
受験生で言うと公認会計士試験に合格すること、準会員であれば修了考査に合格することなども一つの「関」を越えることだと考えてよいと思います。周りから公認会計士として認められ成長していく、そんな過程で「関」は自分のなかでいろいろあっていいと思っています。修行中はつらいことが多々有るかもしれませんが、乗り越えることで活路が開けることから修行が大切だと教えられているように感じます。
私は昨年還暦を迎えたのですが、還暦というのも私にとって一つの「関」という感覚です。

編集後記

本企画は、受験生を含め若い世代に公認会計士の魅力を「第一線で活躍される方々」を通じて広めたいという思いからはじまりました。先生のその“人”に注目し、公認会計士という職業を知ったきっかけから、現在のご活躍まで取材させていただきました。
公認会計士というフィールドの広さが、本企画を通じて少しでもお伝えすることができれば幸いです。次号以降の先生にもご期待いただければと思います。

日本公認会計士準会員会 実践躬行チーム一同

その疑問、お答えします!
公認会計士 Q&A

お答えします!

Q. 準会員会とは何でしょうか?

A. 準会員会とは、会計士補と公認会計士試験合格者(以下、併せて準会員)で構成される若手組織です。
現在会員数は約7,000人おります。我々は準会員の資質の向上並びに準会員同士の交流を主な目的とし、北は北海道、南は九州まで全国で多岐な活動をしております。
近年は講演会の主催や交流会の開催、著名人へのインタビュー及び協会活動への参加を行っております。詳しくはHPをご覧ください。
(<http://www.jija.jicpa.or.jp/>)